海外経営者
列伝
17

キャシー・ウォーデン

ノースロップ・グラマン会長兼CEO

卓越した経営手腕で米国防を支える
パワフルな女性CEO

「同時多発テロ」の衝撃から国家安全保障を支える道へ

地政学リスクの高まりにより、各国の国防予算が膨らむ中、防衛関連企業が注目されている。ボーイングやロッキード・マーチンなど、米国の防衛を担う「ビッグ5」の一角を占めるのがノースロップ・グラマンだ。宇宙空間の防衛インフラやミサイル・爆撃機などの需要拡大を受け、ステルス爆撃機や無人航空機、人工衛星、サイバーセキュリティなどの分野で成長。率いるのは、同社初の女性トップである会長兼CEOのキャシー・ウォーデン氏だ。



ノースロップ・グラマンは人工衛星事業にも力を入れている

1970年代初頭、米メリーランド州に生まれた同氏はジェームズ・マディソン大学を卒業後、ゼネラル・エレクトリック（GE）に入社。キャリアの転機となったのは、2001年に米国で起きた同時多発テロ事件だった。テロの衝撃から「より社会的な意味を持つ仕事がしたい」と考えて国家安全保障の分野を志し、防衛大手のジェネラル・ダイナミクスなどでキャリアを積んだ。

2008年にノースロップ・グラマンに入社し、サイバーインテリジェンス部門、情報システム部門、ミッションシステム部門のトップを歴任。2018年には社長兼最高執行責任者（COO）となる。社内での豊富な実績、現代の防衛産業に不可欠な専門知識と経営手腕が評価され、2019年に会長兼CEOへ就任した。

「国防を支える企業」として国家安全保障の中核を担う

COO就任以降のウォーデン氏の最大の功績は、宇宙開発やロケット・ミサイル関連技術に実績を持つオービタルATKの買収だ。この大型買収によって同社の「スペース・システムズ部門」は一大成長エンジンへと変貌した。

また、米国防総省や米航空宇宙局（NASA）、情報機関といった公的部門のインフラを支える企業として、民間需要に左右されない基盤を整備したことも同氏の成果の一つ。ウォーデン氏の指揮の下、米空軍が運用する戦略爆撃機「B2」や新型のステルス爆撃機「B21レイダー」の開発、次世代大陸間弾道ミサイル（ICBM）システム「センチネル計画」への参画をはじめ、軍事用の衛星網やNASAの宇宙探査プログラムなど、国家機密に関わる長期プロジェクトを多数推進する。

米フォーブス誌の「世界で最もパワフルな女性」ランキング常連でもあるウォーデン氏。優れたリーダーシップと先見性を持つ、米国で最も影響力のある経営者の一人としても尊敬を集めている。



米空軍向けに開発を進めている「B21レイダー」

写真：ロイター／アフロ、AP／アフロ

Profile きゃしー・うぉーでん　GE、ジェネラル・ダイナミクスなどを経て、2008年にノースロップ・グラマン入社。2019年に同社の会長兼CEOに。“強い倫理、誠実さ、尊敬”を重んじる規律型リーダー。航空宇宙産業協会（AIA）理事会の主要メンバーであり、過去にはAIA理事会議長を務めるなど、米国の航空宇宙・防衛産業に強い影響力を持つ。

主な参考文献：日本経済新聞、週刊エコノミスト、ウォール・ストリート・ジャーナル、フォーブスほか